海外移動教室　中国吟詩行（漢詩の聖地を訪ねて）

～西安・乾県・洛陽・鞏義～

≪日　程≫　平成２８年５月１６日（月）～平成２８年５月２１日（土）
≪参加者≫
団長　山内邦照
1 班　班長内山光舟　中西国峰　片山鷺丘　矢澤秀男　植村峰川　尾形櫻娥　田中信啓
2 班　相談役島原湖暟　班長河上泓暟　福島寛暟　水落壮明　荒谷宋暟　南雲鷹勝　南雲緑詠
　　伊藤宰櫻　神野華櫻
３班　相談役山内華雋　班長森口雪孝　芳野歩孝　岳野恍輔　岸田圀丘　林　鐘楽　森　婕孝
　　新武妹孝
4 班　副団長坂口彰山　班長金山嵐岳　藤木旋洲　小野塚誠櫻　茶谷晃風　茶谷良風　佐藤雷菖
　　鈴木菖循
5 班　副団長室屋鷺幽　班長岩間鵠声　貞広好治　鈴木穂生　齋　快劍　勝田寛泉　古本翔桜
　　北浦広恵　福永洋恵　　（合計 42 名）
　　（添乗員　国際交流　辻田順一　辻田洋一　中国日本ガイド添乗員　薛東風さん）

第１日目　５月１６日（月）
日程　１０：２０　関西空港発　中国東方航空便にて西安
　　１２：０５　青島流亭国際空港　着（日本との時差－１時間）
　　１３：１０　青島流亭国際空港　発
　　１５：２４　西安咸陽国際空港　着
　　１７：００　清渭楼「咸陽城東楼」
　　合吟：許渾「咸陽城東楼」　合吟：王維「送元二」
　　１９：００　西安市内のレストラン「明輝楼」にて夕食
　　２１：１０　古都新世界大酒店（ホテル）到着

関西空港搭乗ゲート横で、山内邦照団長の結団式の挨拶があり、いよいよ中国吟詩行のスタートです。青島流亭国際空港は、雲ひとつない天気で空港周辺の街は、低層住宅の屋根が全て煉瓦色で優雅な街並みです。　空港で入国手続きをすませ、同じ飛行機で西安咸陽国際空港に到着し再度の入国手続き行い。専用バスで　現地の日本語ガイド添乗員　薛（せつ）東風さんの説明で一路、清渭楼「咸陽城東楼」に向かいました。　清渭楼「咸陽城東楼」は、渭川の対面する場所にあり、日中書道・墨絵の交流会場になっていました。渭楼の最上階で渭川に向かって：**許渾「咸陽城東楼」**、**王維「送元二」**を、声高らかに「合吟」しました。
時間の関係もあり、一路高速道路にて「西安」向かいました。車中では、明日の中国交流のための、中国語**「送元二」**を、内山光舟先生、森口雪孝先生の指導により練習を行いました。
西安市内のレストラン「明輝楼」にて夕食を済ませ、古都新世界大酒店（ホテル）に到着しまし

た。

渭楼の最上階で渭川に向かって「咸陽城東楼」「送元二」を「合吟」

第２日目　５月１７日（火）

日程　７：３５　ホテル出発
８：４０～　茂陵・茂陵博物館
１０：５８～　永泰博物館の墓　墓室に入って見学
１２：００　博物館レストランにて食事
１２：５８～　乾陵
１５：５５～　**澧東第二小学校にて「日中詩吟交流会」交流３時間**
２０：０７　秦都酒店にて夕食
２１：１９　古都新世界大酒店（ホテル）到着

ホテルを出発し、一路漢武帝の陵である茂陵・茂陵博物館で、国の文化財に指定されている石刻像を見て、永泰公主の墓、墓室に入って見学した後、博物館内のレストランにて食事をとりました。食事が終わると、陵山の中腹を利用した唐高宗と則天武后の合葬の墓である、「乾陵」の見学に向かいました。日中詩吟交流の時間の関係で、入場しすぐ退場になり記念撮影と概要のみの見学となりました。

日中詩吟交流会の会場に向かう車中では、交流の出演者、出演順番などの説明があり、古い集落の細い道路を抜けると、真新しい「**澧東第二小学校**」があり、正門には大きな歓迎の横断幕が掲げられ、大歓迎を受けました。

会場の小学校講堂に入ると、中国文化交流団のリハサルの真最中でした。急ぎ出演者はそれぞれの衣装（男性吟者は袴、女性吟者は着物等・舞は衣装袴）に着替えるともに、中国人司会（中国語及び日本語 OK）によりセレモニーが始まり、日中双方の代表の紹介、挨拶に続いて、中国と日本交互に吟・舞の交流が始まりました。
プログラムは全て中国語ですが、無事スケジュール通りに進行出来ました。

中国側　合吟

日本側交流プログラムは、

１．早発白帝城　　李白　　吟：北浦広恵　福永洋恵
２．峨眉山月歌　　李白　　吟：南雲鷹勝　舞：南雲緑詠
３．送元二使安西　王維　漢語吟：森口雪孝先生先導により全員合吟
４．送元二使安西　王維　日語吟：山内邦照
５．楓橋夜泊　　張繼　　吟：藤木旋洲　舞：南雲緑詠
６．荒城月　　水野豊洲　　吟：佐藤雷菖　鈴木菖循　植村峰川　新武妹孝
　　舞：森　婕孝
７．凉州詞　　王之渙　　吟：山口華雋

日中交流の「証」として、日本の山内邦照団長に贈呈

中国と日本の吟と舞のそれぞれ交流が終わり、最後に、古琴（古琴演奏家）の演奏に合わせて、太極拳（太極拳第１２代目宗家）の拳舞、中国書道（西安市学会会長）が書かれ、書かれた文は、日中交流の「証」として、日本の山内邦照団長に贈呈されました。また、日中双方から「お土産」の交換があり、最後に日中合同の記念撮影をして、３時間に亘る交流会を終了しました。

第３日目　５月１８日（水）

日程　８：１０　　ホテル出発

９：１２～　鴻門の会

合吟：項羽「垓下の歌」　合吟：高祖劉邦「大風の歌」

１０：２５～　泰始皇帝　兵馬俑博物館　　博物館内レストランにて食事

１４：２０～　華清池

１６：０３～　興慶宮　沈香亭

合吟：李白「清平調詞　その三」

阿倍仲麻呂記念碑

合吟：李白「晁卿衡を哭す」

１７：０６～　曲江池吟詩壇

合吟：杜甫「曲江」

１８：４４　　古都新世界大商店（ホテル）到着

２０：１５～　ホテル会議室にて競吟大会

昨日の日中交流を思いながら、ホテルから１時間かけて、鴻門の会の場所に向かう。鴻門の会とは、秦を滅ぼした漢の劉邦（前 247～前 195）と楚の項羽（前 232～前 202）が戦う前に、劉邦が鴻門にある項羽の陣に行った場所である。　**合吟：項羽「垓下の歌」、：高祖劉邦「大風の歌」**を声高らかに合吟しました。合吟が終わり、次の目的地　**「秦始皇帝　兵馬俑博物館」（世界文化遺産）**に向かいました。

一号坑　陶俑馬

バスを降り公園の樹木の間の道を歩くこと１５分でやっと「**兵馬俑博物館**」に到着。兵馬俑博物館は、副埋葬坑の上に作られた中国最大の遺跡型テーマ博物館であり 1979 年 10 月オープンしたもので、３つの兵馬俑坑に約 8,000 体の陶俑馬、戦車 100 台、兵器数１０万が埋蔵されている、秦陵彩絵銅車馬に展示されている２台の馬車は、中国史上最古の最も大きな青銅馬車という。
博物館内を見学後、博物館内レストランにて食事を取る。

玄宗皇帝と楊貴妃ロマンスの池「**華清池**」には、玄宗皇帝は即位の翌年(713 年)から、ほぼ毎年、冬１０月になると避寒と保養のため訪れた。そのため華清池は冬の間、大唐帝国の政治の中心として栄えた。玄宗皇帝は楊貴妃の歓心を買うため温泉宮を大増築し華清池とした。

華清池を後にし、興慶宮・沈香亭・阿倍仲麻呂記念碑に向かった、興慶宮・沈香亭の周囲には、日陰で踊りやカラオケが行われて居たため、周囲を気にしながら　**李白「清平調詞　その三**」を声高らかに「合吟」を行いました。歩いて近い所に「**阿倍仲麻呂記念碑**」があります。阿倍仲麻呂は 717 年遣唐船に乗り中国にやって来ました。中国で懸命に勉強し、難しい科挙の試験にも合格し、玄宗皇帝の厚遇を受け、大臣クラスの地位迄なりましたが、故郷は忘れがたく遣唐船で帰る途中に船が難破してしまったのです。阿倍仲麻呂の船が難破したと言う知らせは、長安の李白のもとに届き、親友の李白は友の訃報を聞いて悲しんで作った詩が　**李白「晁卿衡を哭す**」です。声高らかに阿倍仲麻呂記念碑に向かって「合吟」を行いました。

阿倍仲麻呂記念碑に向かって、李白「晁卿衡を哭す」を「合吟」

合吟を終え、曲江池吟詩壇に到着しました。吟詩壇は、高さ約 2.5m、二重の円形（直計約 30m）の石屏風に、中国の漢詩約７５作が色々な字体で描かれており、真に「漢詩の聖地」の趣があるます。

詩壇の中央の円形舞台から、森口雪孝先生の先導で、**杜甫「曲江**」を、声高らかに「合吟」を行いました。

声ならしも終わり、古都新世界大酒店（ホテル）に到着し、食事後。いよいよ恒例の競吟大会です。審査員は吟経験無しの添乗員ら 3 名です。審査には連吟、素読、語りありなど多様で審査員も審査に困ったと思います。優勝は、岩間鵠声先生と芳野歩孝先生のペア組でした。

杜甫「曲江」を「合吟」

第４日目　５月１９日（木）

日程　７：５０　　ホテル出発
　　託送荷物は専用車で洛陽ホテルへ
　　１０：０７　　新幹線にて西安北駅から洛陽龍門駅へ
　　１１：４２　　洛陽龍門駅　着
　　１１：５５　　洛陽龍門駅　発
　　１２：０３　　頤君大厦にて食事
　　１４：００～　杜甫故里
　　合吟：杜甫「登高」
　　河南省　吟誦学会との詩吟交流
　　１６：５０～　石窟寺　鞏県石窟
　　１８：４０　　牡丹大酒店（ホテル）到着

ホテルを出発、西安北駅から洛陽龍門駅に到着し頤君大厦にて食事を取り、いよいよ**杜甫故里**に向かいました。杜甫故里に入館すると 9.8mの杜甫の青年時代の石像（2007 年整備）に圧倒される。杜甫は河南省洛陽市の東に生まれ、詩体は社会の実相や自己の環境を直視する現実的な着想を基本としている。その結果、詩には、唐王朝の繁栄から衰退への過程が如実に映し出されている。また、儒家思想をよく体現した生き方と作風により、「詩聖」と言われ、1500 余首の詩が現存している。

杜甫の石像

河南省河南大学教授座長とする吟誦学会との詩吟交流

杜甫故里を見学していると、前日交流会で話しがあった、河南省**河南大学教授を座長とする吟誦学会** 10 名がお越しになり、詩吟交流が杜甫故里広場で始まりました。双方の挨拶・紹介に始まり、座長の河南大学教授は日本の京都大学の吉川教授とも面識があり北京大学で勉強されたとのことです。吟交流では、先に日本側から　**杜甫「登高」**を声高らかに合吟の後、座長のお父さんの吟法での、座長吟詠があり、また、吟誦学会の学生による踊りが披露されました。引き続き、山口華雋会長が律詩　**杜甫「春望」**、鈴木穂生先生が**杜甫「貧交行」**を熱唱されました。最後に合同記念撮影で交流が終了しました。

日中　合同記念撮影

日中交流が終わり、石窟寺　鞏県石窟へと向かいました。石窟寺　鞏県石窟は、北魏時代の作品で中国では最も古い仏像の石窟で、中国重点保護指定になっているそうです。
今日も強行日程でしたが、無事　牡丹大酒店（ホテル）に帰ることが出来ました。

第５日目　５月２０日（金）

日程　８：１０　ホテル出発
９：００～　龍門石窟、　白居易の墓
合吟：白居易「対酒」
１２：１８　宴天下大商店にて昼食
１３：００～　ショピングモールにて買い物
１４：１５～　随唐洛陽城定鼎門遺址展示館
合吟：李白「春夜聞笛」
１５：４５～　白馬寺
１８：１２　牡丹大酒店（ホテル）到着
１９：００　さよなら夕食会

ホテルを出発、中国三大石窟の一つ　**龍門石窟**（**世界文化遺産**）に向かいました。龍門石窟駐車場から 8 人～10 人乗りのカートに乗り、伊水の橋を渡り、龍門石窟入り口の「大石門」前でカートを降り西山（龍門山）石窟を見学する。さすがに世界文化遺産に登録されただけに、特に唐初の高宗の時代、西山のほぼ中央部の中腹にある。**奉先寺の大仏**は、高さ約 17m、端正な顔立ちと沈思黙想するまなざしは見る者を引きつける。

伊水の川を渡り東山の**白居易の墓**を参拝、**白居易**「**対酒**」を墓前で声高らかに「合吟」を行いました。**白居易**の現存詩数は約 2800 首で唐代の詩人として最も多い。「酒に対す」は５８歳の時の首であり「意解」は、蝸牛の角の上のような小さい世界で、何を争っているのか。火打ち石の火花のようにはかない時間に、この身を託しているのだ。富むにせよ、貧しいにせよ、それなりに楽しくやろう。口をあけて笑わないのは愚か者である。

この詩を作ったとされる 18 年後生涯を終えている。

奉先寺　高さ約 17m大仏

白居易の墓前「対酒」を「合吟」

白居易の墓を後にし、再びカートに乗り駐車場へ、宴天下大酒店にて昼食。ショツピングモールにて買い物をし、「随唐洛陽城定鼎門遺址展示館」に向かった。展示館の定鼎門を入ると、随唐洛陽城は発窟中で、全体の完成模型があり、一辺７キロの碁盤の目のような整然とした城内です。完成模型を囲んで、**李白「春夜聞笛」**を、声高らかに「合吟」を行いました。

随唐洛陽城定鼎門遺址展示館から**白馬寺**に向かいました。白馬寺は、後漢の明帝（劉莊）永平 10 年（67 年）創建された中国最古の寺院で、中国における仏教の発祥寺でもあります。建立以後、幾度となく兵火にあって、興廃をくり返している。

随唐洛陽城定鼎門遺址展示館模型前で、李白「春夜聞笛」を「合吟」

白馬寺を出発し牡丹大酒店（ホテル）に到着にする。今日で、全ての中国吟詩行の日程が終わり、さよならタ食会となりました。

第６日目　５月２１日（土）

日程　７：４０　　ホテル出発
　　１０：４１　鄭州空港　着
　　１１：１５　チェクイン
　　１４：４０　上海浦東空港　着
　　１７：４５　上海浦東空港　発（約２時間出発遅れ）
　　２０：４５　関西国際空港　着（約２時間到着遅れ）

ホテルを出発し、3 時間高速道路を走り　鄭州空港に着きました。車中時間が長いため、車中では、室屋鷺幽先生から、孔子「論語」の勉強があり第１日目～第６日目まで濃密な海外移動教室でした。

鄭州空港から上海浦東空港へ、雨天の為視界が悪く出発が約２時間遅れて、無事関西国際空港に到着しました。

最後は入国ゲート前で島原湖暟先生による「解団式」の挨拶により散会しました。

（攝友会　岳野恍輔　記）